

SDGs目標4 「質の高い教育をみんなに」

すべての人に質の高い教育の場を提供し、生涯学習の機会を増やしていくことをゴールに掲げています。この目標には、男女の区別なく、すべての子どもが、乳幼児のための質の高い発達支援や就業前教育を受けることによって、初等教育に向けた準備を整えることも含まれています。

Action 4 オトッペ

身のまわりの音に注目することにより、いつも見慣れた風景の中でも新しい発見ができることを子どもたちに伝え、好奇心を引き出すアニメ番組です。2017年4月よりNHK教育テレビジョン(以下、Eテレ)で放送を開始し、主人公の女の子シーナと、音から生まれたふしぎな生きもの「オトッペ」たちが、ゆかいな物語を繰り広げます。また、テレビ番組とスマホアプリが連動し、スマホを使って身近な音を番組に投稿したり、番組に登場するキャラクターをアプリ内で集められるなど、子ども、お母さん、お父さんへ新しい視聴体験をご提供しています。博報堂は日本放送協会(NHK)、NHKエデュケーショナル、ロボット、博報堂アイ・スタジオと協働し、本番組の企画立案、キャラクターおよびアニメーション制作、アプリなどのデジタルコンテンツ制作に携わっています。



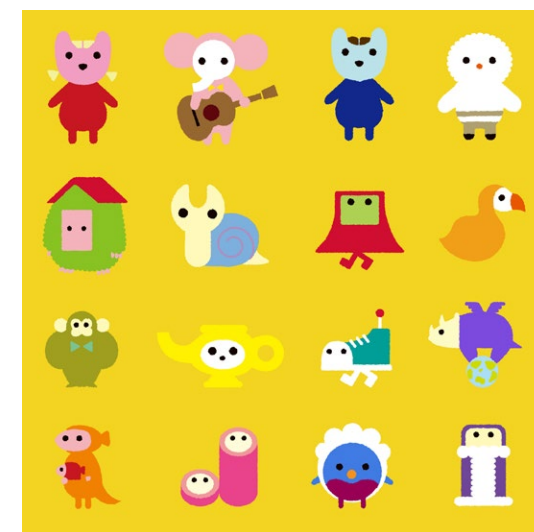
音は見えるようになると、もっと知りたくなる。

クリエイティブの力で、子どもたちの自発的な「育ち」を引き出したい。



「音をテーマにした番組をつくりませんか?」とNHKエデュケーショナルの番組制作スタッフの皆さんにご提案した際に、「アプリと連動した企画にできないでしょうか」という要望をいただきました。チームの中には小さな子どもがいるスタッフもいて、最初は「子どもにスマホ」が前提となるのは教育に良くないのでは、という意見もありました。本当に子どものためになることは何か。みんなで考えていくうちに、スマホの画面の中だけでなく、親子で身のまわりの音に耳を傾けて、子どもが外に出かけたくなるようなアプリをつくらうと議論が進んでいきました。「見慣れたいつもの風景の中にも、身のまわりの音に注目するとさまざまな発見がある」。この「聴察」というコンセプトも、こうして生まれてきました。当初は番組もアプリも、「教えたい」「こう感じてほしい」という気持ちが強かったのですが、Eテレの方々のさまざまなアドバイスを受け、徐々に変わってきたのです。子どもたちが「自分で発見したい」「自分で考えたい」と思うきっかけをつくることの方が大事なんだと気づきました。まず音を好きになって

もらう。音って面白い!と感じてもらう。そこから、音への興味をきっかけにして、どんどん外に出てほしい。いろんなことに、好奇心を抱いてほしい。オトッペのコピー「音は、ふしぎの入り口だ。」には、そんな気持ちが込められています。一方通行の「教え」ではなく、自発的な「育ち」につながっていただけたらと願っています。



オトッペ制作チームをキャラクターでご紹介します。



オトッペは、2017年4月よりEテレで放送を開始した子ども向け教養番組です。



YouTube「オトッペ町役場公式チャンネル」では、振り付け動画などをご覧いただけます。これまでに延べ1,200万回再生されました。